



広報

にのみや

昭和48年2月 第122号

発行所 二宮町役場 企画課

0463 (72) 1811 (代表)

住所 中郡二宮町二宮 919 番地

電話 0463 (71) 0767 (代表)

し尿処理の実態



汲みとりは

昭和二十七年から

戦前までは、し尿が農作物の最大の肥料として、還元的な活用がなされてきました。戦後の肥料が不足し、経済社会の発展とともに化学肥料の出現で、し尿の肥料としての役割は失われ、その処理が社会に大きな課題として残されたことになりました。いまは、し尿を資源として有効に活用する地方自治体が増え、苦しい戦いを経ていくのが実状です。

二宮町においても、良好な環境と豊かな生活環境をつくるために、町として力をこめて立ち向かわねばならないという意識でもありますが、なにより大切なことは、町民ひとりひとりの協力と理解が不可欠です。

町でし尿を汲みとり始めたのは、法で行なっていました。昭和二十七年から、当時の上 作業員は三輪車の運転手をもち、町、中町、元町などの地区を対象に、三人行は、捨て場としては有とがでます。昭和三十一年には、現にビヤクで桶汲みと桶三 地の備用と、農家タイプアップし、在中井町にすばり溜の土地を備輪車にかついで積み込むという方て農家の肥田に捨ててもらう用して、そこに捨てたりしていま

て、ましたが、汲みとり量の増加から、その方法も長年続けた、開投棄と山間投棄方式もつて今日ま、なんとか切り替わってきたの事情です。

し尿の汲みとり量

二十五キロリッター

昭和四十六年度の年間におけるし尿の汲みとり量は、七、四七〇キロリッターで対象世帯数は四、〇三四世帯となっています。

おなじに昭和四十六年度の最終月である四月三十日現在の人口と世帯数を調べて見ます。

人口が二、九三九人、世帯数が六、〇四四世帯で汲みとり対象世帯数は比較しますと対象世帯数のほうが少ないという状況が、これは元々方式をとっている家庭（農家）や浄化槽の家庭などが汲みとり対象となっていないためです。

浄化槽の清掃も

適当な時期に必要な

汲みとり対象世帯数四、〇三四世帯の他、浄化槽の処理の家庭が、ありますが、これらの浄化槽の清掃は種類にもよりますが、年一回程度の清掃を必要とします。

浄化槽の清掃は、環境衛生上、

し尿の

山間投棄の現状

一人一人がし尿を一日のうちに、平均家庭からの量は一日約五・六リッターの排泄量となり、現在一家庭の汲みとり回数を一万月に三回の割合で行なっています。これらの量が山間の投棄量です。

一緒に見守ろう

造成の完了まで

吾妻山一部の公共用地造成の起工式を昭和四十七年七月十日に行ない、十月十六日から本格的な（土砂搬送）造成工事を行なうてまいりましたが、今日まで二月余を経過いたしました。

一年有念にわたる住民の話し合いから説明会や意見交換、その中から出たいろいろな問題点や、要望に最善の努力をばらしてまいりました。

造成工事も順調に進んでいます。それにはみなさんの理解と協力が不可欠です。いまは、

訂正とかわび
用途地域特集号のなかで二宮都市計画用途地の白色箇所を第二種住居専用地域に訂正してかわびします。

道路を広く使いましょう

より安全な
交通対策をめざして

—二宮町交通安全計画—

[illegible]

昭和四十二年、神奈川県は「交通事故死傷」といふ結果に事なした。そしてこの年緊要事態に對処するために、県はもろのつて、各市町村でも交通安全対策を急を要する積になりまし

た。故してとくちよとなひて、故しつていふより、まづ十一月には、乗車一バスについて、は昭和四十一年と四十六年を比較してみても、約六人起す予が出ている。

なめ、無罪な運転をして事故を全施設の整へ方には、各務省より、とりくに通学、通勤児童、幼稚園、保育園を対象に、その附近の道路状況、各校園間の針にあらせざる関係機関、団体等との協力の上、積極的に推進します。

防止のための対策

[illegible]

用、商店に対する居座の防止に効果的だ。駐車場の確保促進を計画しています。

また、交通安全教育の展開は、各学校、幼稚園、保育園に対して交通安全の開眼、あらゆる機関、団体等の協力による交通安全教育の推進を図ることにしています。

幼児等に対する交通安全の啓蒙を、配布をします。

町交通安全対策協議会を通して町各関係機関、団体へ指導強化を積極的に行います。

また、各事業所には交通安全講習会を通して、運転者に対して交通安全教育の徹底、交通安全教育を一般的なように指導強化をはかることにし、町内組織等による広報活動をはかっています。

また、交差点等通路上重要な交差点へ、正しい交通ルールを身につけさせる交通安全通学隊員を定め、指導員として協力をお願いします。

役 場 機 構 の 紹 介
 〈⑥ 総 務 課 の 巻〉
 ～職場の和をモットー～



総務課の仕事を、町議会会の議案に関するところから、職員の設定、組織の编制、職員の招用厚生として、財政の全般、予算の編成などなる、財政の基本的な仕事になっている。

これらの仕事に、なされてい

る職員数、課長は十六人で、職務内容からいへば、町内和毛

ッ तरी、明るい職員づくり、新しいコミュニケーションの育成を図りつつ、行政の推進に努めています。

① 庶務課のおもな仕事としては

議案の作成から、職員の適正管理、文書收受、庁舎各課の連絡調整をして、職員の事を給にしている管理部門など、係長を含む一人の職で行なっています。

職員です。

現在ですと昭和四十八年度予算編成を行っていますが、住民

に許される範囲で努力しています。が、職員間の意志の疎通や和を、大町民と行政の距離、短縮に努め、や管理をとらてがなっています。

② 財政課のおもな仕事は財政全般にわたっての企画、予算の編成として適当な運用をするための財政政策を行なっており、係長を含む二人の職で行なっています。

目下、たつた事務消化を目的として懸命に努めてゐる。

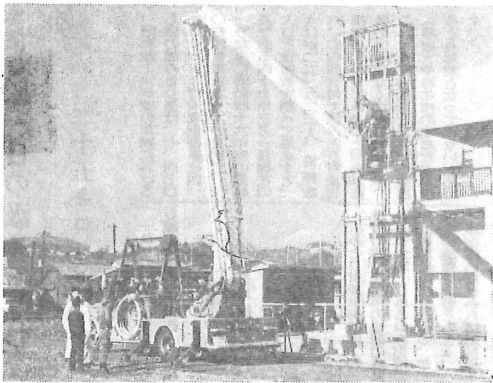
この他、選挙管理委員会および監事事務の事としては、公選選挙法による各々各開選選挙事務所、日常詰肥と行はる公明選挙事務、選挙高橋と行はる選挙事務、予算正産正形と使われてゐる入金のうちを審査する諸事務即ち入金の員で監視の目を光らせてゐます。

総務課の場内の部署は向うから右側の順です。役員段利用用室が利用できる。外隨段利用用室があるが和利が通います。

なにかお付き合いがありましてなら、総務課七二一・八七六とか金庫課七二一・八一七とかお知らせ下さい。

屈折はしご消防車を配備……

今回配備した消防車は、屈折はしご付消防ポンプ自動車で、町では初めてのはしご車です。この車は高所消火作業と人命救助に機動力を発揮し、16メートル（約5階層上）までの高さにはしごが伸びずま。また、エアバック、スローダウン等の救助装置を備えており、この車の配備により町消防力の増強に期待されます。



- 4 日 役場始式。
- 5 日 賀詞交歓会を開催。公民館において町内町関係者により年始めの交歓を実施。
- 7 日 出初式を開催。消防車 9 台、消防署、団員 100 人の参加で分行行進、消防操法、労務者表彰、そして一斉放水によって消防力を公開した。
- 9 日 議会全員協議会を開催。中清浦組合について審議した。選挙管理委員会定例委員

- 会を開催。検察審査会候補者のくじ施行、名簿の抹消等を実施。
- 日 飲酒運転追放月間終る。12月11日からの運動期間中、飲酒運転による事故は「0」でした。
- 日 民生委員会々議を開催。
- 日 町成人式を開催。公民館で式典、講演会等を132人が参加して開かれました。
- ロードレース大会を開催。

町 の 動 き

1月1日~1月31日

吾妻神社前をゴールに熱戦が
繰りひろげられ結果は次のと
おり。

一般の部①松本良克(入川句)
18分04秒②森二郎(原田)③
前田卓也(中町)

中学生の部①小沢行弘(2年)
10分56秒②萩原明宏(2年)

③坂口光寛(2年)

- 19日 老人医療請求事務に関する説明会を開催。町内の医療関係の方々に、今年から始まった老人医療の関係について説明した。
- 20日 経済観光常任委員会視察。静岡県焼津、由比港を視察してきました。
選挙管理委員会を開催。
- 22日 農業振興地域会議を開催。農業振興地域制度について説

明した。

- 23日 果樹共済説明会を開催。今年4月から始まるこの制度について、関係各機関を対象に説明をした。
- 26日 藤野町より視察。戸籍、福祉関係についての視察がありました。
- 29日 農業委員会総会を開催。衛生委員会議を開催。
- 30日 社会福祉センター建設委員会を開催。

